北海道余市紅志高等学校のスクールミッション

令和３年１月１５日
（令和５年４月６日一部改訂）

１　北海道高等学校長としてのミッション　～つながる力、つなげる力の育成～

北海道の豊かな物的あるいは人的資源の価値に気づき、その価値を多くの人々と共有し、さらに高い価値を付与しながら、広く世界の人々とのつながりを構築して、北海道の財産を有効に生かすことによって人々が住まう地域の豊かな暮らしを自ら作り上げようとする人、また、それらに取り組むところに幸福観や充実感を感得できる人の育成

２　スクール・ミッション　～「ソムリエカ」（つながる力、つなげる力）の育成～

生徒が暮らす北後志地域の物的あるいは人的資源の価値に学び、それらの価値を生かしたりさらに新しい価値を生み出したりする取組を通して、地域の課題を地域の人々とともに解決していこうとする意欲と経験を身に付けたり、相手に応じて趣旨が通じるように工夫して伝えたりする活動により、将来各自が住まうであろう様々な地域においても、みずから人々とのつながりを築き、協働的に豊かな地域社会を、ひいては豊かな世界を作り上げようとする人の育成

（１）関連する科目のまとまりである「系列」及び幅広い選択科目の学習を通じて、自立して生きていくために必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成

（２）地域との連携・協働等を通じて、地域の課題に向き合い、解決するために必要な資質・能力を身に付けた生徒の育成

＊本校においては、相手の立場や相手の思いなどに応じた相手意識を働かせたコミュニケーション能力（つながる力）を「ソムリエカ」と称し、キャリア教育の重点に位置づける。

３　校訓

学べ　優しく　逞しく

４　学校教育目標

社会で活きて働く力を身に付け、自分の力で逞しく未来を切り拓き、地域の創造に貢献できる人の育成

５　校訓、ミッション、学校教育目標の関連

校　　訓	スクール・ミッション	学校教育目標
学　　べ （思考力・判断力）	地域の価値に学ぶ 地域課題の発見と解決	社会で活きて働く力を身に付け
優　し　く （想像力・表現力）	相手に応じて工夫して伝える 人々とつながり協働的に	地域の創造に貢献できる人の育成
逞　し　く （　主　体　性　）	意欲と経験 新しい価値の創出	自分の力で逞しく未来を切り拓き

６　育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

11年前の余市紅志高校創立時に策定された校訓の趣旨と、これからの新しい高等学校が目指す使命や地域の高等学校としてのスクールポリシーを分析的に系統化を図り、卒業時に本校生徒が身に付けているべき（地域への約束としての）生徒の資質・能力を次のように整理した。

（１）学べ（知的活動、知識習得、見通し）＝思考力・判断力

ア　基本的知識・技能

イ　課題発見・解決力（状況把握・情報活用→課題発見→計画立案、メタ認知など）

ウ　言語能力（言語活用能力、対話力など）

＊成功体験→自己有用感→「なんとかする、なんとかなる（前向きと楽観）」

ａ＜主体的に目標を設定し＞

（２）優しく（人間関係、相手意識・ホスピタリティ、モラル）＝想像力・表現力

ア　協働性（相手意識、コミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性など）
イ　自他尊重（自己理解・他者理解、自己肯定感、規範意識、傾聴力、表現力など）
ウ　多様性理解（寛容性、外国語等能力（含む手話）、対話力など）
＊自己との対話、他者との対話→「ありがとう（つながる力と感謝）」
＊自己理解→他者理解→自己肯定感→「自分らしく（独立とマイペース）」
ｂ＜振り返りながら＞
（３）逞しく（自己理解、自尊感情、自己有用感、コンフィデンス、意欲・意思）＝主体性
ア　意欲・実行力（自己有用感、意思など）
イ　責任･使命（自立心、自尊感情など）
ウ　健やかな身心（自己理解、規律性、自律、忍耐力など）
＊成功体験→自己有用感→「挑戦とつなげる力（自己実現と成長）」
ｃ＜責任ある行動がとれる力＞
（４）ａ＋ｂ＋ｃ＝生徒のWell-being実現のために重要な資質・能力

7　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

（１）学校教育目標やめざす生徒像実現のため、教科・科目横断的な教育課程の効果的編成に努める。
ア　単元配列表を活用し、意図的・計画的横断化を推進する。
イ　総合的な探究の時間を各教科・科目で培った知識・技能及び資質・能力を総合的に活用・評価する場面として位置づける。
ウ　生徒の主体性を育む空き時間の設定
・空き時間の活用にかかるしつけ→空き時間の主体的活用能力の育成→ポートフォリオへ
・面談（生徒、二者等）や進路学習など生徒理解、進路実現に向けた時間として活用
・産社、課題探究にかかる補完的な時間として活用
（２）各系列の趣旨を明確にし、趣旨に基づいた特色ある科目を設定してめざす生徒像の実現を図る教育課程の編成に努める。
ア　系列ポリシーを明確化し、各系列がどのような資質・能力を育てるための科目群なのかを自覚的に編成･実施するとともに、科目選択時の生徒への説明の重要項目に位置づける。
イ　大学進学等に対応する科目は自由選択科目群に配置する。
（３）語学や起業、地域おこし、福祉など、生徒が将来どのような地域で生活しても、地域社会の一員として地域の課題解決のため様々な人々とともに取り組みながら自己実現を図ろうとする意欲の醸成を目的とする、地域に開かれた教育課程の編成に努める。
ア　ワイン用ブドウの苗の実験栽培（理科的取組）からワインの販売（ビジネス的取組）まで一貫して取り組めるよう横断的な教育課程の編成に努める。
イ　地域の伝統的リンゴ品種である「緋の衣」の保存に努めるとともに、それを活用した菓子の開発、また、地域食材を活用した「米粉パン」の製造、「エディブルフラワー」の実験栽培に取り組むなど、地域の特産品の創出に貢献できるよう、教科、課題探究、農業クラブの連携を図る教育課程の編成に努める。
ウ　農福連携、観福連携など「〇福連携」の取組を福祉系の授業に取り入れるとともに新系列教育課程の中核に位置づける。
エ　世界とのつながりを意識し、主体的な国際交流活動を企画、運営、参加しようとする意欲や、様々な国の人々や文化に触れて理解を深め受容する資質・能力を育むことを目的とする新系列を設定する。
オ　これらの教育課程の実施にあたっては、教科指導、特別活動等教育課程全般にわたってどのような体験的な活動などの活用場面を通じて、どのような資質・能力を育てようとしているのかを常に明確にする。
カ　また、シラバスやポートフォリオ評価、観点別評価等を活用し、目指す資質･能力面の評価に努めるとともに、コア・ルーブリックを策定して、グラデュエーション・ポリシーに即した評価を実施する。

（４）小規模総合学科の弱みを軽減し、強みを活かせるよう、教育活動全般を合理的、系統的に統合する教育課程の工夫に努める。

ア　１つの取組で３つの成果が期待できるよう、ねらいの合理化・統合化を図る。

イ　北海道有朋高等学校との学校連携をはじめ高等学校間における教育課程の互換・共通化を進めるとともに、ICT機器を活用した遠隔授業への参加など、少ない人員でも総合学科としての特色を失わない教育課程の編成に努める。

ウ　体験・実習、教科・科目の横断化、地域および地域の枠を超えた人材の活用により、知識・技能の活用場面を重視し、他者から認められる体験を通じた自己肯定感、成功体験を通じた自己有用感等の醸成を図る教育課程の編成・実施を本校の重要な特色として位置づけるとともに、これらの維持に最大限努める。

８　入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

（１）中学校までに将来の進路目標が見つかっていなくても、本校に入学してから、自らの在り方・生き方を仲間や教員とともに、地域をステージとした様々な体験的な活動を通じて探究し、自ら進路目標を決定し、進路実現を果たそうとする生徒。

（２）自らの考えや思いをことばや創作物などのパフォーマンスによって他の人に伝えたり、他の人の考え方や思いをよく見聞きして想像したりしながら理解を深め、年齢、性別、国籍や文化の違いを超えて人とのつながりを持ちたいと考えている生徒。

（３）これまで、自分に自信が持てなかったり、自分のよさを見つけられずにいたとしても、高校で身に付ける基礎的･基本的な知識や技能を様々な体験の場で活用して、自分の良さや活躍場面を発見し、将来自分らしく、たくましく生きていきたいと考えている生徒。